

ひかりの輪へ抗議デモです

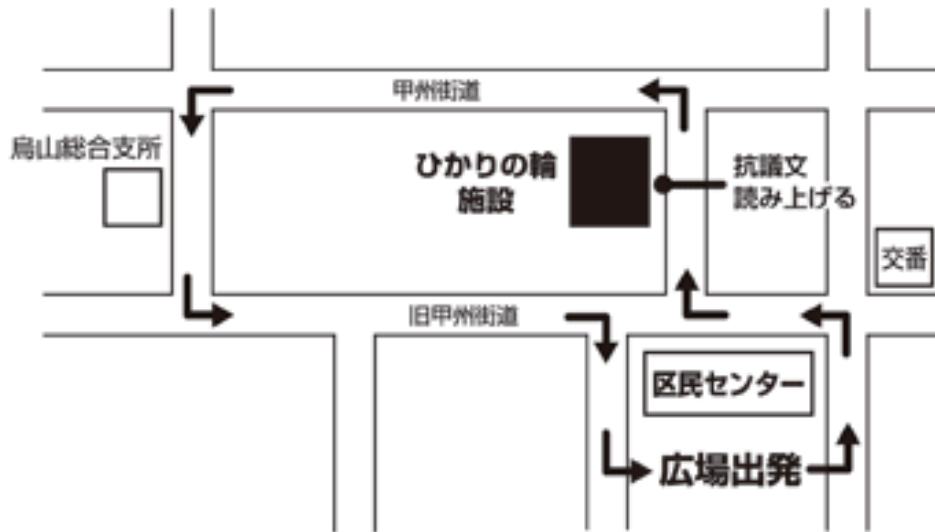
第29回 抗議デモ

11月8日(土)

午後1:30集合 1:50デモ出発

烏山区民センター前広場集合

抗議デモコース



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

※烏山区民センターが改修中で、1階ホールで開催していた学習会は今回に限り中止となります。抗議デモに是非ご参加ください。

連載 オウム真理教と闘い続ける⑨ 元烏山総合支所長 春日敏男さんに聞く

平成12年12月23日(土) 区役所対策本部での日直後、現地対策本部に向き、信者の大量転入してきた建物まで行った。すでに日が落ちてしまい、不安を掻き立てるような暗がりがかがっていったことを記憶している。

総合支所に異動早々、建物内部の状況を確認するため、ひかりの輪の記者会見にマスコミ関係者とともに建物内部に入った。室内に漂う異臭、変わらぬ道場の設え、オウム真理教を隠そうとする、会見中に何度何度も水を口にする代表の姿があった。

オウム真理教は、地下鉄サリン事件などの無差別テロ殺人、数々の凶悪犯罪を行った団体である。今年140周年を迎えた警視庁が1000の重大事件の中から選んだ第一位の重大事件である。

このオウムに対して不安や恐怖を抱えながら「烏山地域オウム真理教対策住民協議会」は14年もの長期にわたり、毎日の監視活動、学習会と抗議デモ、協議会二一ス、観察処分

第29回オウム真理教(ひかりの輪)への抗議デモにご参加ください

2001年より継続してきた抗議デモも29回を数えます。継続は力と言いますが、住民協議会の様々な活動の中でも抗議デモはもっとも重要な活動です。抗議デモは単純なように見えますが、オウム真理教にとっては、自らの考えを真つ向から否定されることにながら、特にひかりの輪の指導者にとっては耐え難い屈辱ともなります。さらに烏山の町を練り歩くことで、オウム真理教の存在を知らせ、改めてオウ

ム真理教と戦う住民協議会の活動を認識してもらうことにもなります。

近頃の色々なデモは太鼓などの楽器を用いて、沿道の皆さんにもアピールするようになっていますが、私たちのデモは、活動初期からシュプレヒコールを叫ぶ、勇ましいものです。若い世代の参加が増えれば抗議デモの内容も変わるでしょうし、もっと盛り上がるでしょう。たくさんの方々の参加を期待しております。

期間更新などの署名活動、さらにバザー・募金活動を、強固な決意で続けてこられた。

こうした地域からの追い出しではなく、解散、解体をめざした協議会活動の後押しで、総合支所当時でしたが、支所職員が動いて一人の信者の居場所を確保することができた。

しかしながら、オウム真理教は信者を増やし勢力を拡大してきている。麻原への絶対回帰を強め、上祐派ではインターネットやSNSを使った勧誘活動、オウム施設でのセミナーや巡礼等により、一連のオウム事件を知らない若者を中心に信者拡大を図っている。

地域の宝である子供たちや将来を担っていく若者たちを守り、地域の安全安心の暮らしや生活を守っていくために、住民に不安や恐怖を与え、反社会的危険集団、オウム真理教を解散、解体させるために、地域の皆さまの「烏山地域オウム真理教対策住民協議会」への参加と支援をよろしくお願いいたします。

オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の現状 (公安調査庁 ホームページより)

アレフ・ひかりの輪の勧誘方法

オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)は、このところ積極的に信徒の拡大を行い、ここ数年で両派では150人増加し、約1650人となった。

アレフは、声掛けの勧誘を行い、書店で「一緒に本を探してもらえませんか」「教室を開きたいのでモニターになってほしい」などと声を掛ける手法を用いている。また、イベントを利用した勧誘では、宗教色を排し、35歳以下に限定した、薬膳料理を食べる企画を立案し、公共施設などにピラを置き「皆さんで料理・食事をしながらお話しするイベントです」などと呼びかけたり、実態のないサークルを装いイベントの告知をするなどの手法を用いている。さらにヨガなどに興味をそめた人を対象に「世界を支配する勢力がオウムをはめた」「地下鉄サリン事件は教団は起こしていない」など陰謀論を植え付け、入会を促すなどの勧誘活動を展開している。

ひかりの輪は、上祐自らインターネット放送局を利用し、懇親イベントへの参加を宣伝、座談会などを開催するなど、勧誘活動に取り組んだが参加者の増加はなかった。

最近のアレフ・ひかりの輪の特徴

アレフは、在家信徒を対象に、麻原の「生誕祭」などを開催、麻原への絶対的帰依を植え付ける指導を徹底した。特に年3回実施した、集中セミナーでは、在家信徒に睡眠・休憩時間を与えず、

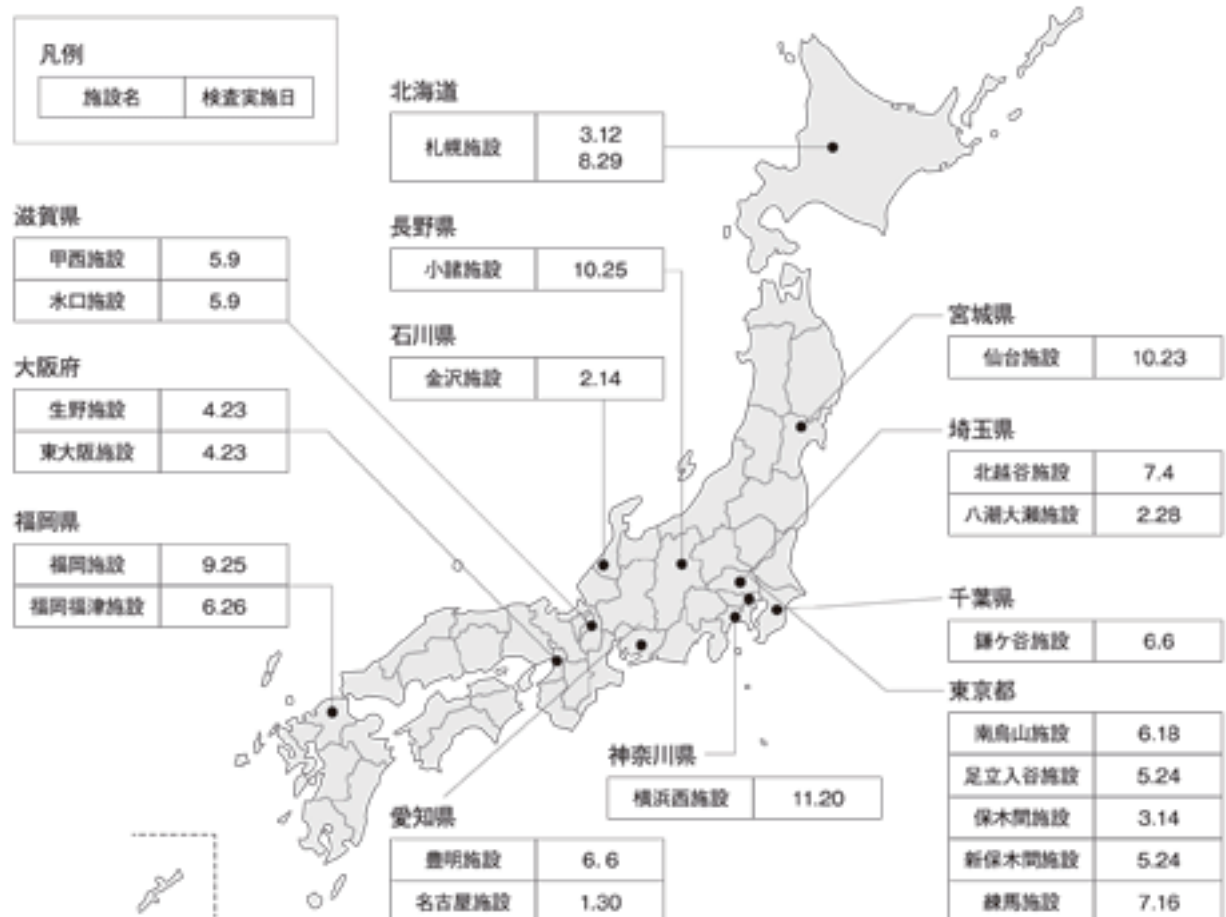
過酷な修行を課した。教本を利用し「グル(麻原)のデータを蓄積しなさい」と麻原への絶対的帰依の重要性を強調した。特に生誕祭への参加者が増加、平成20年に比べ2.5倍となっている。

ひかりの輪は、上祐の「オウム17年目の告白」「終わらないオウム」「危険な宗教の見分け方」などを出版「麻原への執着は一切ありません」などとアピールした。

オウム真理教施設への立入検査

観察処分に基づくオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)施設への立入り検査は、26年は8月までに17回となり、15都道府県延べ46か所の施設に対し実施した。ちなみに観察処分が施行されてから通算で、本年8月までで278回となり、施設数は19都道府県延べ590か所(実数131か所)となる。

立入検査実施施設 (平成25年1月から11月末実施分)



上記の地図で、ひかりの輪の施設は8か所となります。

住民協議会活動報告

9月19日(金) 実行委員会

9月23日(火) ~ 9月24日(水)

烏山神社秋まつりで募金活動

9月29日(月) 住民協議会ニュース139号初校正

10月6日(月) 住民協議会ニュース139号再校正

10月9日(木) 事務局会議

10月9日(木) 署名集計

10月13日(月) 住民協議会ニュース139号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。